

## 音声学って何？—オープンキャンパスにおける音声学・英語学の紹介—

小松 雅彦

「音声学をやっています」と言うと、世間一般では「温泉学？全国温泉巡りですか、いいですね」（「音声」→「温泉」）とか、せいぜい「歌がお上手なんですね」（「音声学」→「声楽」）とかの反応が返ってきます（これは実話です）。私自身、大学に入学するまでこんな分野の存在は知りませんでした。そこで、私のゼミでは2017年からオープンキャンパスで音声学を紹介する出展をし、大学での学びの一端を紹介しています。

初年度の2017年は、過去の卒業論文のポスター展示の他、実演・体験コーナー、名札コーナー、解説コーナーを設け、音声学の紹介をしました。2017年の企画に際して、荒井隆行氏（上智大学）、田中ゆかり氏（日本大学）、ソヌミ氏（当時、日本大学）、林直樹氏（日本大学）にご協力いただいたことを感謝いたします。

展示した卒論の内容は、デープ・スペクターの日本語の訛り、促音、日本人と中国人の英語の比較、モノマネ中国語、日本語の滑舌、だみ声、日

本語の方言、日本語訛りの英語と多岐に渡ります。その他にも、音に反応して模様が変わるクラドニ図形、ポンプを押すと母音の音が出る模型（上智大学から借用）、ペットボトルとアクリル管製の簡易模型を展示・実演し、来場者にも体験してもらいました。また、希望者には、その場で自分の名前を録音してもらって、声紋入りの名札やシールをプレゼントしました。パワーポイントを使って音声の仕組みの解説もしました。

2018年には、実演・体験の内容が増え、ボコーダー（楽器にしゃべらせる装置）のシミュレーターの実演・体験、音響分析をしての発



音に反応して模様が変わるクラドニ図形。調理用ボウルにポリ袋を張り、塩を振っています。



音チェック、アメリカ英語・イギリス英語のクイズ、この年にネットで話題になった Yanny or Laurel (同じ音が聞く人によって Yanny と聞こえたり Laurel と聞こえたりする)の説明・体験のコーナーが加わりました。

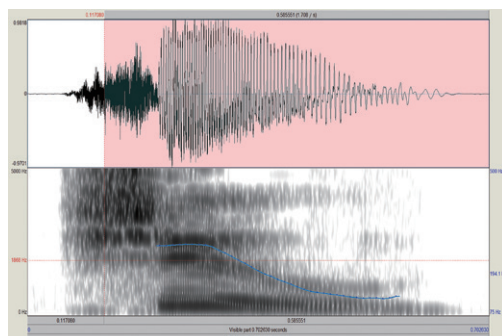
ペットボトルとアクリル管で作った「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」に似た音が出せる声道模型。2019 年、小林龍ノ介氏（当時本学学生）が改良して 5 母音が出せるようにしました。5 母音が出せるのは、たぶん日本初です！（現在故障中）



希望者には、その場で自分の名前を録音してもらって、声紋入りの名札やシールをプレゼントしました。



オープンキャンパスの様子（2018 年）



shoe/fu:/ の先頭を切ってピンクの部分だけ聞いたらどう聞こえる？ 答えは、chew/tfu:/ です。

研究系、研究系、ちょっと研究系、お勉強、プレゼント、それぞれのコーナーで展示・実演・体験が行われました。

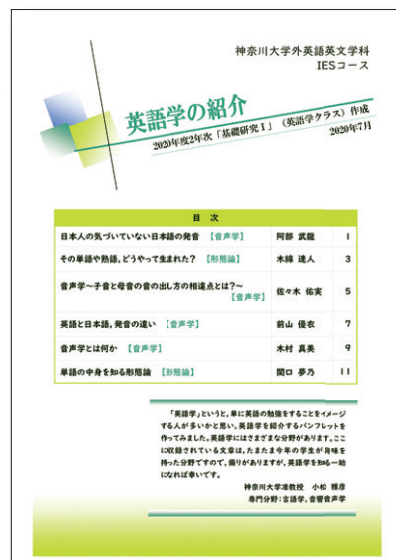
3年間を通して、多くの方に来場していただきました。高校生は難しい年頃なのか、同伴のご父母や小学生の方が本人よりも興味を示して下さいました。また、受験予定者の中でも、外国語学部志望でない方の中に強い興味を示して下さいました方がいらっしゃいました。オープンキャンパスで多くのイベントがある中で、短時間で効率的に音声学を紹介していくことが今後の課題です。

2020 年は、サイバーオープンキャンパスとなったため、英語学を紹介するパンフレットを pdf で作成しました。音声学のゼミではなく、英語学分野のプレゼミで学生の関心に任せて執筆してもらったため、内容は音声学 4 編、形態論 2 編とアンバランスになってしまいましたが、それぞれ非常に分かりやすい文章になっています。もともと

オープンキャンパスで持ち帰ってもらう予定でしたので、A5 判見開きで 1 つの記事が読めるようにレイアウトされています。今後、記事を増やしていきたいと思っています。



2019 年のオープンキャンパス資料



英語学を紹介するパンフレット  
(2020 年)

\* \* \* \* \*